

第149号

目次

— 会長就任の挨拶 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

●世界各国の高校生へ津波対策施設と港湾を活用した災害支援を紹介
～「世界津波の日」2019高校生サミットin北海道～ (北海道開発局 空港・防災課)

●海外各国の高校生が浜中町霧多布港を来訪
～「世界津波の日」2019高校生サミットin北海道 スタディツアー～ （浜中町 水産課港灣係）

●いしのまき港 探検ツアーを開催しました！

(石巻市建設部河川港漕課)

●「大型浚渫兼油回収船「白山」入港に伴う七尾港防災訓練」開催！
(七尾市産業部商工観光課)

●児童が敦賀港を見学しました
(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

●徳山下松港で「海辺の自然学校」を開催しました
(中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所)

●『別府ポートフェスタ2019』が開催されました！
(九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所)

●マースダムなど沖縄県内に初寄港のクルーズ船が相次いで寄港
(沖縄総合事務局港湾計画課)

3 お知らせ

◇イベント名：第12回天保山まつり

◇イベント名： 田子の浦ポートフェスタ2019

*:

1 ポートエッセイ

— 会長就任の挨拶 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

先般、愛知県豊橋市で開催されました日本港湾振興団体連合会第53回総会において、会長に就任させていただきました、(一社)新潟港振興協会会長の中原八一でございます。

本誌において改めて会員の皆様方に就任のご挨拶を申し上げます。

私は昨年11月に新潟市長に就任し、今年の5月に(一社)新潟港振興協会の会長に就任いたしました。

新潟港には、北海道や佐渡との定期フェリー航路を有する西港区と、本州日本海側最大の国際コンテナ貨物を取り扱う国際コンテナターミナルが立地し、LNGや石油製品などのエネルギー輸入基地でもある東港区があります。西港区は今年1月に開港150周年を、東港区は今年の11月で開港50年を迎え、私が会長を務める(一社)新潟港振興協会は今年で設立51年目となります。

新潟港の節目となるこの時期に当連合会の会長に就任することとなり、連合会の歴史や会員の皆さまが重ねてこられたご努力に対して気が引き締まる思いです。

当連合会は、昭和42年に設立されて以来52年の歴史を有する団体であり、それぞれの港湾の機能や規模は異なりつつも、港の振興を共通の目的に、心をひとつにして大変多くの成果を上げてこられたと伺っております。

港湾には、施設の充実とともに「使いやすい、サービス水準の高い、選ばれる港湾」が求められており、さらに今後の発展においては優れた経営感覚も必要となります。

現在開催されている「ラグビーワールドカップ」の日本代表に因み、引き続き「One Team」として、各港湾固有の魅力を活かし発展するとともに、連合会一丸となって港湾の振興にご尽力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

*::~

2 トピック

*::~

●世界各国の高校生へ津波対策施設と港湾を活用した災害支援を紹介

～「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道～

(北海道開発局 空港・防災課)

9月10日(火)～11日(水)、国土強靱化を担う将来のリーダー育成と世界各国の「きずな」を一層深めることを目的とした「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道が、札幌市の北海道立総合体育センター「北海きたえーる」で開催されました。

「世界津波の日」は、2015年の国連総会にて日本が提唱して全会一致で採択されたもので、その後高校生サミットが2016年に高知、2017年に沖縄、2018年に和歌山で開催されています。北海道で開催された今回は、世界44か国から約400名の高校生が参加し、地震や津波等の大規模自然災害への対応について、生徒自らが発表・議論を熱心に行い、理解を深めました。

北海道開発局港湾空港部では、この会場入口に設けられた展示ブースにおいて、①津波スクリーン(津波漂流物対策施設)の効果を示す模型、②北海道南西沖地震の記録映像、③港湾を活用した災害

支援紹介のパネルを用いながら、津波とその対策施設や港湾による災害支援について世界の高校生に紹介を行いました。

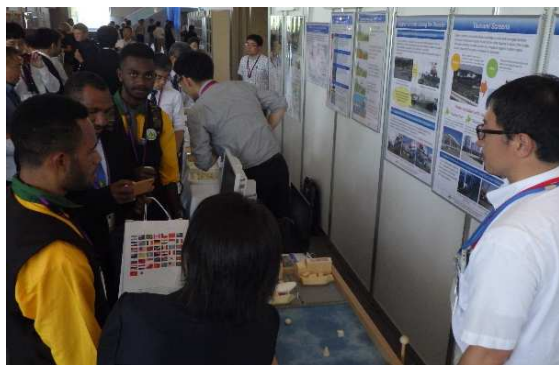
様々な団体による展示の中で、津波スクリーン(津波対策施設)の模型はたいへん好評で、多くの参加者が自ら操作をして理解を深めていました。この模型は、レバーの操作によって津波による海面の上昇とそれに伴う船の陸上への乗り上げ、船に押し流される車両を再現し、津波スクリーンによる状況の差を分かりやすく示したものです。この模型は、「NPO 法人釧根地域港湾・漁港技術研究会」のご協力によって作成されたものです。



サミット開会式(メインアリーナ)



津波スクリーンの模型



施設の効果説明



参加者による模型操作

●世界各国の高校生が浜中町霧多布港を来訪

～「世界津波の日」2019高校生サミットin北海道 スタディツアー～

(浜中町 水産課港湾係)

9月7日(土)～8日(日)、「世界津波の日」2019高校生サミットin北海道(9月10日～11日に札幌で開催)の関連行事としてのスタディツアーが実施され、世界各国の高校生など計179名が2班に分かれて浜中町に来訪しました。

浜中町では、霧多布高等学校でウェルカムセレモニーを開催し、松本浜中町長から「本町は災害に強いまちを柱の1つに掲げ、避難訓練や防潮堤の整備など、さまざまな対策に取り組んでいます。本町の津波対策を見ていただき、今後の母国での活動に参考となれば幸いです。」との挨拶がありました。その後、1960年に発生したチリ沖地震津波の被災者体験談を寸劇で紹介するとともに、浜中町における防災対策を説明しました。高校生は実際に避難訓練を徒歩で体験し、霧多布港の防潮堤の改修工事や陸間などを視察しました。

これらの取組を通じて、ツアーに参加した高校生は、地元高校生との交流を図るとともに、津波の脅威やその対応策を学び、「避難訓練を体験したが、高台に登るのが大変だった。防潮堤を初めて見たが、まるで要塞のようだった。」といった声も聞かれました。

なお、本スタディツアーでは、浜中町のほか、奥尻町や釧路市などにも世界各国の高校生が訪問しています。



挨拶する松本町長



霧多布高校で記念写真



津波避難訓練体験



改修工事中の防潮堤

●いしのまき港 探検ツアーを開催しました！

(石巻市建設部河川港湾課)

令和元年8月6日、石巻市、東松島市及び女川町の小学5、6年生とその保護者を対象に「いしのまき港 探検ツアー」を開催しました。今年で3回目となる本イベントでは、石巻港に隣接する企業の工場見学や関係官公署による業務内容の紹介が行われたほか、新たな試みとして、東北地方整備局が所有する港湾業務艇「ひより」による海上見学会も実施しました。

海上見学会では、偶然港内にいたイルカの群れが港湾業務艇と並走し、時折ジャンプを見せるなどの嬉しいサプライズもあり、子どもたちだけでなく保護者の皆さんも喜んでいる姿が見られました。

一般の方が普段接することの少ない港に関わる仕事や役割を知ってもらい、興味・関心を持っていただくため、来年度以降も実施していきたいと考えております。



参加者と港で働く方々



港湾業務艇に乗って港内見学

●「大型浚渫兼油回収船「白山」入港に伴う七尾港防災訓練」開催！

（七尾市産業部商工観光課）

令和元年9月28日（土）、北陸地方整備局などの関係機関10団体約200人が参加して、「津波防災の日」「世界津波の日」の訓練として、七尾港で初の緊急支援物資輸送等の防災訓練を行いました。訓練は七尾港開港120周年記念事業の一環として行われたもので、能登半島北方沖を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、道路の寸断や座礁した船から油が海へ流出したとの想定の下、新潟港湾・空港整備事務所の「白山」による緊急支援物資輸送等訓練及び油回収訓練、七尾海上保安部の巡視艇「はまゆき」等による油防除訓練、第九管区海上保安本部のヘリコプターによる漂流者救助訓練、七尾鹿島消防本部及び金沢港湾・空港整備事務所の港湾業務艇「のとかぜ」による傷病者輸送訓練などを行い、大規模災害時における関係機関との連携を確認しました。

また、翌日の9月29日（日）は、「白山」と「はまゆき」が一般公開され、家族連れなど約150人の来場者が船員の案内の下、船内を見学しました。



油回収訓練



「白山」一般公開

●児童が敦賀港を見学しました

（北陸地方整備局 敦賀港湾事務所）

敦賀開港120周年記念事業として敦賀市内小学校を対象とした「港の見学会」を開催しました。この見学会は港の役割や施設の重要性などを学習してもらうことにより、みなとまち敦賀の歴史や魅力などに関心をもってもらうことを目的として当事務所と敦賀市が共催したもので、港湾業務艇「まつかぜ」による体験乗船を実施しました。

見学会は9月末から10月中旬にかけ実施し、天候不良で中止となった日もありましたが、無事開催されました。

約40分間の体験乗船で、RORO岸壁・フェリーターミナル・国際物流ターミナルの施設などの見学のほか港を出入りするいろんな船の説明などに興味津々の様子で、「港の面積や港を利用する船数は？」「この船の名前の由来は？」などと即答に困るような質問をする姿も見られました。

乗船した児童より「敦賀港はたくさんの国とつながってすごいと思った。家族や親戚にも伝えたい。」の感想もいただきました。



乗船前、船内で説明を聞く様子

●徳山下松港で「海辺の自然学校」を開催しました

(中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所)

9月27日(金)、徳山下松港の人工干潟にて「海辺の自然学校」を開催しました。

「海辺の自然学校」は子供たちに干潟にすむ動植物の豊かさを知ってもらうことを目的として、平成16年から継続して実施しているもので、今年度は地元小学校の児童29人を招いて、干潟に生息する動植物に関する座学や人工干潟での現地体験学習を実施しました。

人工干潟での現地体験学習では、干潟の生き物観察とアサリの間引き作業に挑戦してもらいましたが、アサリの間引き作業では、児童たちは手に持ったクマデで砂を掘り、あっという間にアサリをバケツいっぱいになり上げていきました。また、干潟での生き物観察では、ゴカイの卵などの普段見ることの出来ない干潟の生き物を目の前に児童たちは大はしゃぎし、時間を忘れて干潟で散策を続けていました。

最後は児童たちに感想を述べて貰い、『海を汚さないようにしたい』との意見がありました。今回の環境学習を通じて、自然を大切に思う気持ちが芽生えた事が成果であると思います。



人工干潟での記念撮影



アサリの間引き作業

●『別府ポートフェスタ2019』が開催されました！

(九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所)

令和元年8月24日(土)に『別府ポートフェスタ2019』が大分県別府市のみなとオアシス別府港で開催されました。会場にはマルシェやフリーマーケットなど数多くの出店があり、また、別府港が「釣り文化振興モデル港」に指定されたことを記念した「別府市長杯釣り大会＆釣り教室」などのイベントが開催され、多くの家族連れの方々と賑わいました。ちなみに、釣り大会優勝者の小学生が釣り上げた獲物は体長約57cmのマゴチでした！

別府国際観光港では、「オリアナ桟橋」を釣り開放しています(開放時間は8:00～17:00)。皆様もオリアナ桟橋に訪れて、釣りを楽しんでみてはいかがでしょうか。



マルシェの様子



釣り大会の様子



釣り大会優勝者(右)

●マースダムなど沖縄県内に初寄港のクルーズ船が相次いで寄港

(沖縄総合事務局港湾計画課)

9月初旬から10月初旬にかけて沖縄県内の港に初寄港のクルーズ船が相次いで寄港しました。
ホーランド・アメリカ・ライン社の「マースダム(55,575GT)」が9月4日に那覇港へ、コスタ・クルーズ社の「コスタ・ベネチア(135,500GT)」が9月12日に中城湾港へ、ドリーム・クルーズ社の「エクスプローラー・ドリーム(75,338GT)」が9月24日に平良港へ、バイキング・オーシャン・クルーズ社の「バイキング・オリオン(47,842GT)」が9月25日に石垣港へ初寄港しました。また、ポナン社の「ル・ラペルーズ(10,038GT)」は10月2日に石垣港に本邦初寄港を果たし、翌3日には中城湾港に初寄港、更にはアストロ・オーシャン・インターナショナル・クルーズ社の「ピアノランド(69,153GT)」が10月6日に平良港へ本邦初寄港しました。



那覇港に初寄港した「マースダム」



平良港に初寄港した「エクスプローラー・ドリーム」



中城湾港に初寄港「コスタ・ベネチア」



石垣港に初寄港した「バイキング・オリオン」



中城湾港に初寄港「ル・ラペルーズ」



平良港に初寄港した「ピアノランド」

菱垣廻船まちなかパレード

【U R L】 <https://www.city.fuji.shizuoka.jp/sangyo/c0301/rn2ola0000013xdi.html>

[illegible][illegible]